Ishikawa Prefectural Rehabilitation Center News

2008／3
Vol.23

# 石川県リハビリテーションセンターニュース

目　次

介護保険とリハビリテーション …… 1
平成19年度リハビリテーションセンター研修会報告 …… 2
平成19年度福祉用具研修・普及事業の報告 …… 2
平成19年度バリアフリー推進工房の活動 …… 3
平成19年度石川県難病相談・支援センター事業実施状況 …… 5
平成19年度石川県高次脳機能障害相談・支援センター事業実施状況 …… 6
平成19年度障害者のスポーツ用具・環境整備の普及指導事業の報告 …… 7
虹の窓から …… 8

## 介護保険とリハビリテーション

指導課長　荒　木　　茂

平成18年の診療報酬改定により医療機関でのリハビリテーション料に日数制限が設けられました。この背景には維持期のリハビリテーションは医療機関から介護保険に於けるリハビリテーションへという国の誘導が反映しています。逆に言えば介護保険でのリハビリテーションが非常に重要視されてきていると言うことです。実際には病院でリハビリに通っている患者さんは通所リハビリテーションになかなか移ってくれません。これは患者さんのニーズと通所リハビリテーションのサービスが一致していないことにもよりますが、通所リハビリテーションを実施している施設としても経営や人材確保という点でなかなか利用者の要望には応えられないのが現状でしょう。今後、通所リハビリテーションは病院のリハビリ外来のような機能を分担しなければならなくなるのでしょうが、いつの時代も制度の理念と現場の状況とはずれが生じるものです。介護保険関係施設のリハビリテーションは集団レクリエーションや集団体操のイメージが強く、病院でのリハビリテーションとのギャップがあまりにも極端で病院から患者さんがなかなか離れないという例もあります。最近このような病院から移行したがらない利用者のニーズに応えるべく個別リハビリテーションに特化した通所リハビリテーションを行うところがでてきてかなり人気を集めているようです。一方フィットネスクラブを併設するところもあり、介護保険のカバーしない部分を自己負担でサービスを提供するなどいろいろなところが出てきています。お金持ちの団塊の世代が今後対象になってくるので大きなマーケットがここにあると読んでいる経営者が出てきても当然でしょう。福祉サービスというのは昔からは非営利のイメージが強く、これが介護保険、障害者自立支援法などでビジネスとして変えられていくことに多くの経営者、職員は違和感を感じているでしょう。福祉がビジネスになれば公的機関はどんどん撤退し、民間がこれを担っていくことになります。高齢化社会はこれからが本番です。高齢者や障害者に自分の必要なサービスを見つけて買いなさいといってもできるものではありません。関わる人たちの支援が必要です。そして利用者のニーズにあったサービスが提供できる基盤作りも必要です。どこの施設も限られた人数で毎日忙しくがんばっておられることと思います。リハビリテーションセンターも皆様方に頼られる機関になるようがんばっていきたいと思います。リハビリテーションに関する相談、情報提供、研修会などを行っていきます。皆様方のご意見、ご要望がございましたらお気軽にご連絡下さい。

# 平成19年度リハビリテーションセンター研修会報告

今年度企画しました研修会もほぼ全てが終了しようとしています。どの研修会も多職種の多くの方々に参加していただきました。また、参加の際には快くアンケートに協力していただき本当にありがとうございました。来年度も皆様の関心の高い内容や要望に添えるような企画をしていきたいと考えています。下記に今年度実施した研修会の一部を紹介します。

## 1．地域リハビリテーション研修会「世界の地域リハビリテーションから学ぶ」

医療保険制度、介護保険制度ともに目まぐるしい変容を続ける今日、日本での取り組みを明確にするためにも、世界（海外）の状況がどのようなものかを知り、今後の活動の一助となるよう、アメリカとオーストラリアで活躍されている講師を招きました。

| テ　ー　マ | 講　　師 |
|---|---|
| シカゴでの高齢者に対する地域ケアへの取り組み | ロッケルコミュニティー病院<br>理学療法士　クリニカルマネージャー<br>Rosaline M Felipe（ロサリン　フェリペ）先生<br>通訳：カイザーパーマネント南サンフランシスコ病院<br>理学療法士　小倉　秀子 先生 |
| オーストラリアでの高齢者に対する医療と福祉 | 公益法人　豪州ＮＰＯ国際医療協会<br>理事長　月森　　奨 先生 |

両研修会ともに、アメリカ、オーストラリアでの医療・福祉の現状と、各専門職の役割や活動状況を知る機会を得、日本とは全く異なる保険制度についても学ぶことができた内容でした。アメリカでの専門分野に分かれた理学療法士の活動や日本と異なり介護予防給付のような制度のないこと、オーストラリアでのホームドクター制度や転地療法についてなど、参加者の皆様から、新しい知識と発見を得たという感想を沢山いただきました。

## 2．地域リハビリテーション実務者研修会「介護予防の具体的な実践方法について」

昨年度の介護予防に関する研修は、運動器の機能向上についてのみでしたが、今年度は生活行為向上、口腔機能の向上も加えた３つのテーマについて、各保健福祉センター圏域で実施しました。

今回は、参加方法を選択性としたことで、興味関心のあるテーマのみや同じ施設内で３名がテーマを分けて参加する方などがみられ、研修内容も好評でした。また講師は、各圏域で活躍されているリハビリテーション専門職を迎えたことで、参加者との交流の場を設けることができ、研修終了後は個人的に相談している方を多数みかけました。地域連携とまではいえませんが、そのきっかけ作りができたようでセンターとしても嬉しい光景でした。

| テ　ー　マ | 講　　師 |
|---|---|
| 生活行為向上のための個別プログラムの立て方と具体的な実践方法について<br>～認知症、閉じこもり予防・支援を中心として～ | 芦城クリニック　作業療法士　村田　明代 先生<br>桜ケ丘病院　作業療法士　岡田　千砂 先生<br>恵寿総合病院　作業療法士　進藤　浩美 先生<br>あいずみクリニック　作業療法士　尾尻　恵子 先生 |
| 運動器の機能向上のための個別プログラムの立て方と具体的な実践方法について | やわたメディカルセンター<br>理学療法士　霜下　和也 先生<br>まるた老年リハビリ研究所<br>理学療法士　丸田　和夫 先生<br>公立羽咋病院　理学療法士　北谷　正浩 先生<br>特別養護老人ホームこすもす<br>理学療法士　水上　直彦 先生 |
| 口腔機能の向上のための個別プログラムの立て方と具体的な実践方法について<br>～摂食・嚥下機能のアプローチを中心として～ | 能美市立病院　言語聴覚士　白木　幸三 先生<br>金沢医科大学病院　言語聴覚士　伊藤太枝子 先生<br>恵寿総合病院　言語聴覚士　諏訪　美幸 先生<br>市立輪島病院　言語聴覚士　佐々木敏文 先生 |

## 平成19年度福祉用具研修・普及事業の報告

リハビリテーションセンターでは、福祉用具の普及啓発を目的に、今年度様々な職種を対象に５つのテーマで研修会を開催しました。その中で今回は、シーティングと自助具適合の２つテーマの研修会について報告します。

**１．「障がいのある人への活動を引き出すシーティング」**

福井県小児療育センターの理学療法士　辻　清張氏を講師に迎え、講義とシーティングのデモンストレーションを行いました。

講義は、シーティングに関する基礎知識（解剖学、生理学）の確認から動画を使ってのとてもわかりやすい講義でした。デモンストレーションは、実際に障がいのある方に来ていただき、その方のシーティングに関する課題について調整を行っていただきました。ご本人と話し合いをしながら調整をされていく過程やなぜこのように調整したのか説明をしていただきとてもわかりやすく学ぶことができました。小児施設で働く療法士だけでなく高齢者施設で働く方にも、また若手からベテランに渡って大変好評な研修会となりました。

**２．「自助具適合研修～スイッチ製作を通して～」**

障害のある方の個々の身体特性に合った用具を選択するためにはリハビリテーション専門職が試作して評価・検討することが必要となります。本研修会は講義や実技を通してスイッチの適合技術の向上を図ることを目的として開催しました。

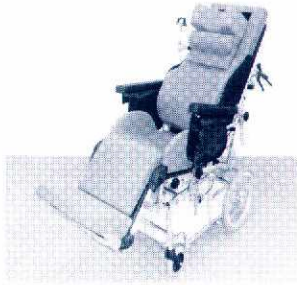
講義はスイッチの適合の基礎知識（スイッチの種類や固定方法など）について、実技は様々は工具を実際に使って、押しボタンスイッチとベッド柵での固定具の製作を行いました。ハンダゴテやテーパーリーマー、アクリルカッター等普段使ったことのない工具に参加者の方は苦労しながらも熱心に取り組まれていました。

## 平成19年度バリアフリー推進工房の活動

**１．既製品で解決できない福祉用具や住環境の相談に対して、医療、工学、建築の総合技術によって応援しています。**

重度の四肢麻痺で人工呼吸器を必要とする方のために、姿勢保持装置と人工呼吸器を搭載した車いすを製作しました。この車いすを利用することで座る姿勢が安定し、外出することも可能になりました。

このような医工学連携による技術支援や福祉用具の試用などを希望される方は、バリアフリー推進工房にご相談ください。



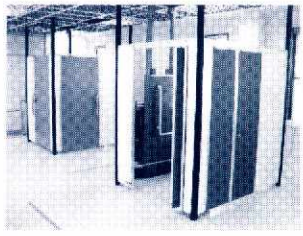
人工呼吸器搭載・
姿勢保持装置付き車いす

**２．福祉用具や住環境に関する課題やニーズを当事者とともに体系的に整理し、基礎研究や技術普及につなげています。**

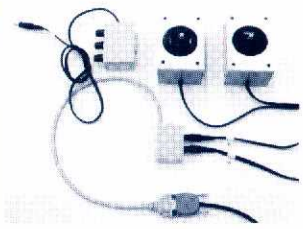
**〈ニーズの高い福祉用具、住環境の基礎的研究開発と調査研究〉**

- 身体特性に応じた操作インターフェイスの研究
  （簡易電動車いすインターフェイスの開発）
- 浴室・プール施設のユニバーサルデザイン（ＵＤ）研究
  （いしかわ総合スポーツセンター更衣・シャワー室等の設計検討）
- 生活・環境適応型車いすの研究開発
  （自走できる水まわり専用車いすの開発）
- 就学・就労のための道具・環境づくり
  （学校いす姿勢保持クッションの開発）
- コミュニケーション支援の研究
  （スイッチ適合支援の研究）　等

**３．県内企業・団体に対する福祉用具、住環境、ユニバーサルデザインの情報提供、製品評価、開発指導を支援しています。**



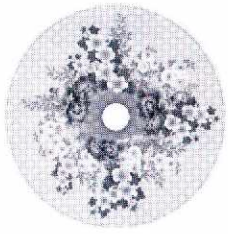
ＵＤ折れ戸検証のモデル



インターフェイス各種

① 企業等に対する福祉用具、ユニバーサルデザインの支援

・ユニバーサルデザイン折れ戸の開発と検証（コマニー）
・音声調節付き案内装置開発指導（レハ・ヴィジョン）
・触知図のＪＩＳ化対応案内版の開発指導（シンコー、スクリーン・クニエダ、メイバン　等）
・車いすスポーク「マイプリントカバー」の開発（トータルシステム）
・コミュニケーション機器用スイッチの開発（ライブエイド）等

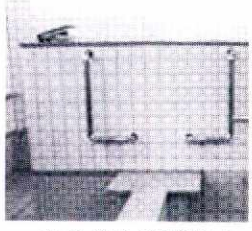


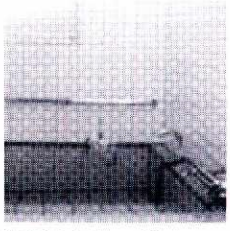
車いすスポーク
「マイプリントカバー」

② 公的施設に対するユニバーサルデザインの指導

・能登半島地震災害復旧支援仮設住宅および避難所
・いしかわ総合スポーツセンター
・県立美術館、近代文学館、金沢城址、本多の森公園回遊ルート
・石川県総合養護学校（２期工事）、南部養護学校、県営住宅　等

本多の森回遊ルートＢＦ検証





県立総合養護学校・生活支援棟の浴室

## 4．当事者と一緒に『いしかわ総合スポーツセンター』のユニバーサルデザインを支援！

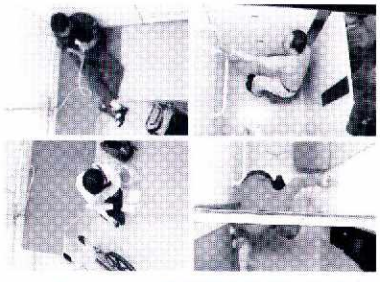
現在、金沢市稚日野町に建設中の「いしかわ総合スポーツセンター」が４月12日にオープンします。このスポーツセンターは、メインアリーナ（バスケットコート４面の広さ）、サブアリーナ（バスケットコート２面の広さ）、軽運動用のマルチパーパスルーム、トレーニング室、プール等から構成されており、日本海側では最大級の規模です。

施設の大きな特徴としては、障害の有無にかかわらず誰もが安心して競技や観戦ができる人に優しい設備になっていることです。基本構想の段階から「ユニバーサルデザイン検討会」を立ち上げ、県教育委員会、土木部営繕課、バリアフリー推進工房の連携はもとより、障害者スポーツ団体の多くの方々にご協力を頂き、ご意見を反映するとともに幾度ものモニター検証を通じて設計を進めてきました。

敷地には、視覚に障害のある方の誘導設備をはじめ、雨に濡れずに入館できる駐車場を整備し、施設には、競技用車いすのサイズや仕様にも配慮した多目的トイレやシャワールームのほか、一般トイレや更衣室の中にも車いすの方が利用できる便房やシャワールームを整備しました。また、聴覚や視覚に障害のある方にメッセージを伝える館内ＰＨＳの貸し出しや観客席への磁気ループ設備など、随所にユニバーサルデザインの配慮を施しました。

また、完成記念大会として、今年の５月18日に県障害者スポーツ協会の主催で、北信越と中部の車椅子バスケットボール４チーム、車椅子ツインバスケットボール４チームが集う「ミリオンカップ2008」が計画されており、一人でも多くの方に障害者スポーツを知ってもらう機会になればと思います。ぜひ皆様にも車椅子バスケットボールや車椅子ツインバスケットボールの迫力を身近に感じながら、スポーツセンターのユニバーサルデザインに触れて頂ければ幸いに思います。

電動車椅子サッカーチームの
方々との意見交換会



シャワールームのモデルを用いた検証

完成間近のスポーツセンター

## 5．自走できる水まわり専用車いすの開発！

―いしかわ総合スポーツセンターへ導入―

車いすを自走できる人がプールや浴場等で利用する「水まわり専用車いす」を開発しました。開発にあたり、当事者20名の協力を頂き、試作と検証を繰り返しながら製品化し、この度、スポーツセンターにも導入することが決まりました。

この車いすの特徴は、車いすから床への乗り移りに適していること。駆動が両上肢のほか片手片足でもしや

すいこと。身体を洗う際に、車いす上での姿勢保持や上肢支持がしやすいフレーム構造になっていることです。その他の仕様は、前座高44cm、座面の角度３度、幅40cm、奥行38cmで、主輪は駆動や横移乗がしやすい18インチ。アームサポートは移乗や洗体に配慮し、かつ上肢に障害がある場合でも操作がしやすい跳ね上げ機構。フットサポートは床に降りる際に全体重をかけても転倒しない配置で、臀部や足底を傷つけない素材。シート素材は肌に優しく撥水性や速乾性の良いメッシュ生地で、安定した座位姿勢を保つために背シートは全面張りとし、座・背ともに張り調整式。姿勢変換時の上肢支持部となるフレームや手押しハンドルにはコーテング対応。フレームの材質は錆びないステンレス製で折りたたみ構造とし、主輪およびキャスターの軸と軸受けも耐水性になっています。すでに製品化されていますので、必要の際にはご相談ください。

試作機を用いての検証

開発した自走
水まわり専用車いす

## 6．障害者に対するＩＴ支援

ＩＴとは情報関連技術のことを意味し、コンピューターを核にしたハードウエア、ソフトウエア、システム、通信などの技術を指します。

効率的な情報収集・発信を目的にＩＴを応用した機器がいたるところで利用され、その利用は社会生活上不可欠になってきています。

傷病により障害を負ったことで、ＩＴ利用の機会を得られなかった方々や、今までの方法ではＩＴを活用できなくなり不便を感じている方々に対し、障害者自身がＩＴを活用し生活状況を改善し、より充実した生活が送ることができるよう支援します。

筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）の方のＩＴ活用例

例えば、障害によって「ノートをとる」「教科書をめくる」「黒板の字を見る」ことなどに支障があった方が、ＩＴ活用によって就学が可能になったり、移動が不自由で外出が困難な方が、ＩＴ活用によって在宅就労やネットショッピングが可能になったりします。また、発達障害領域では、コミュニケーション手段や仮名・漢字などの学習、パソコンを用いた遊びなどでＩＴ機器が活用されています。

また、筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）などの神経難病の場合には、病気の進行により話すことや書くこと、パソコンのキーボードやマウス操作が困難になる場合があります。対象者とのコミュニケーションを確保するために、残存している身体部位を活かして、呼び出し装置や環境制御装置、パソコンなどを操作するための支援を行います。

バリアフリー推進工房では、コンピューター操作を補助したり、様々な活動を補助するための装置を数多く揃えており、ＩＴ活用を検討されている方々のご相談に応じておりますので、是非ご利用下さい。

# 平成19年度石川県難病相談・支援センター事業実施状況

難病相談・支援センターが設立して１年９ケ月が経過しました。難病の方々が自分で自分の生き方を選択できるよう支援しています。今年度の状況について報告します。

## １．難病相談（４月～12月）

| 相談方法 | | 件数（延） | 割　合 |
|---|---|---|---|
| 電話 | | 343 | 63.8% |
| 面接 | | 112 | 20.8% |
| | （再掲）専門医相談 | 22 | 4.1% |
| | （再掲）リハビリ相談 | 5 | 0.9% |
| 電子メール | | 52 | 9.7% |
| ファックス・はがき | | 4 | 0.7% |
| 家庭訪問 | | 27 | 5.0% |
| 合計 | | 538 | 100.0% |

昨年度より、相談件数は減少していますが、相談内容としては、就労についてや、住宅改修、福祉用具についての相談が増えています。

## ２．ピアサポート事業

昨年度より、ピアサポート事業として、ピアカウンセリング集中セミナー２日間コースを実施しています。今年度は延27人が参加しました。

また今年度より、当事者によるピアカウンセリングを始めましたが、脊髄小脳変性症や全身性エリテマトーデス等５人の希望者に実施しました。医療に対する不信や病気に対する不安等患者同士話し合うことがで

き、共感できる場となっています。

能登地区は地理的事情から、出向いて相談を受けるピアサポート事業を行っています。今年度は筋萎縮性側索硬化症の方に同じ疾患の方が訪問して相談を受けました。

### 3．セルフマネジメント事業（ヨーガ教室）

今年度より、ヨーガ教室を月１回開催しています。指導者自身も脊髄小脳変性症の方です。脊髄小脳変性症やパーキンソン氏病、後縦靱帯骨化症の方など１回に10～15人程度の参加があります。

### 4．専門職研修会

| 日　時 | 研　修　内　容 | 対　　象 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 平成19年<br>10月13日 | 炎症性腸疾患食事療法<br>社会保険中央総合病院　斉藤　恵子 氏 | 医療等の栄養関係者等 | 39人 |
| 10月26日 | コミュニケーション支援の重要性<br>石川県リハビリテーションセンター<br>ＯＴ 他 | ＯＴ、ＰＴ、ケアマネージャー、保健師等 | 37人 |
| 11月25日 | 難病患者の自立支援の実際<br>日本ＡＬＳ協会理事　川口有美子 氏 | ＯＴ、ＰＴ、ケアマネージャー、保健師等 | 21人 |

### 5．ボランティア育成

昨年度より、神経難病生活応援ボランティアを育成しております。昨年度からの研修修了生は、40人で、そのうち20人がボランティアの登録を行い、神経難病拠点病院である医王病院でふれあいボランティアとして活動したり、ヨーガ教室に参加しています。

### 6．難病支援連絡会

難病支援ネットワーク会議、特定疾患関連団体連絡会、神経難病拠点病院連絡会等をとおして、関係機関や地域とのネットワークを構築しています。

### 7．難病患者生活支援啓発普及事業（語り部事業）

難病の方々の一番の理解者になって欲しい医療、福祉関係学校等の学生に対して、患者さんが自分の病気について語る事業です。今年度は、金沢大学医学部保健学科理学療法専攻、金城大学医療健康学部理学療法科、こまつ看護学校学生に、後縦靱帯骨化症、筋萎縮性側索硬化症、網膜色素変性症の方に講演をしていただきました。

### 8　調査研究

特定疾患継続申請者5,000人程度を対象に、実態調査を行っていますが、今年度は就労に関するアンケートを実施しました。そのデーターを基に、石川県における難病患者の就労支援を検討していく予定です。

## 平成19年度石川県高次脳機能障害相談・支援センター事業実施状況

今年度４月から高次脳機能障害相談・支援センターが開設しました。今年度の活動内容について報告します。

### 1．高次脳機能障害相談・支援センター事業

| 相　談　方　法 | 件数（延） | 割　合 |
|---|---|---|
| 電話 | 169 | 71.9% |
| 面接 | 51 | 21.7% |
| 電子メール | 1 | 0.4% |
| 家庭訪問　等 | 14 | 6.0% |
| 合計 | 235 | 100.0 |

| 相　談　内　容 | 件数（延） | 割　合 |
|---|---|---|
| 医療・治療 | 31 | 13.2% |
| 病気・病状 | 17 | 7.2% |
| リハビリ | 21 | 8.9% |
| 障害の理解・対応 | 43 | 18.3% |
| 生活・対人関係 | 16 | 6.9% |
| 就学 | 9 | 3.8% |
| 就労 | 65 | 27.7% |
| 患者会 | 5 | 2.2% |
| 福祉制度 | 6 | 2.6% |
| 他（生活支援教室等） | 62 | 26.4% |

相談者は、家族、友人からの相談が最も多く次に職場の上司、学校が多くなっています。

原因疾病については、脳血管疾患が42.9%で次に頭部外傷28.6%、脳炎等その他が23.8%、不明が4.8%でした。男女比では、男性が78.6%、女性が14.3%、不明7.1%です。

診断の有無については、高次脳機能障害の診断有りが38.1%、無しが11.9%、不明が50%でした。

当センターでは、継続的な支援が必要なケースには、ＯＴと相談員がペアになり支援しています。よく就労の相談について、どのような支援をしているのかという問い合わせがありますが、相談内容により、共に障害者職業センターに出向いたり、他の支援方法等を一緒に考えています。

2．生活支援教室（生活する能力の向上を図るための教室）

| 日　　時 | 内　　容 | スタッフ | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 毎週水曜日<br>午前10時～午後３時 | 話し合い、体操、認知レクリエーション他 | 作業療法士<br>保健師、心理相談員他 | 62人<br>１回　3.2人 |

3．家族教室（家族が障害について正しく理解するための教室）

| 日 | 内　　容 | | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| ９月30日 | 高次脳機能障害について | リハビリテーションセンター　岸谷　都 氏 | 16人 |
| 11月11日 | 家族の対応や作業について　笑い太鼓（名古屋） | 星川　広江、池田まさみ 氏 | 12人 |
| ２月24日 | 社会保障制度について | 金沢市障害福祉課　今寺　誠 氏 | 11人 |

## 平成19年度障害者のスポーツ用具・環境整備の普及指導事業の報告

平成19年度新規事業として障害者スポーツ用具や環境整備の普及、啓発を目的に車椅子バスケットボール競技体験モデル事業、ハンドサイクルの講習会を開催しました。その内容について報告します。

### 1．車椅子バスケットボール競技体験モデル事業

専門学校金沢リハビリテーションアカデミーの学生さんを対象に車椅子バスケットボールの競技を体験してもらう講習会を開催しました。講師は県車椅子バスケットボールチーム「Jamaney石川」の選手にお願いいたしました。

「Jamaney石川」の選手達と学生チームとで車椅子バスケットボールの合同練習を何回か行い、８月18日㈰松任運動公園総合体育館において交流試合を行いました。

第１試合は「Jamaney石川」を支えるボランティアで構成される女子チーム「Jamaney石川ジュニア」対金沢リハビリテーションアカデミー女子チーム「アカデミックLittles」。第２試合は「Jamaney石川」対金沢リハビリテーションアカデミーの男子精鋭チーム「アカデミックBombers」が対戦し熱戦を繰り広げました。その模様は24時間テレビにも取り上げられテレビ放送されました。試合結果は以下の通りでした。

第１試合　「Jamaney石川ジュニア」対「アカデミックLittles」
　前半　０－２　　後半　10－10　　アカデミックLittlesの勝ち
第２試合　「Jamaney石川」対「アカデミックBombers」
　第１クオーター　６－11　第２クオーター　20－４
　第３クオーター　10－２　第４クオーター　４－２　　Jamaney石川の勝ち

### 2．ハンドサイクル講習会

平成19年９月２日㈰石川県障害者ふれあいフェスティバル会場内にハンドサイクルおよびスポーツ車いすの試乗体験コースを設け、ＮＰＯ法人アダプティブワールド理事長 齊藤直 氏の指導のもと、試乗体験を行いました。

多くの方（障害のある方もない方も）にハンドサイクルに試乗体験いただき、楽しんでいただけた。これが、道具や環境の工夫をすることで誰もがスポーツを楽しむことができるという理解に繋がって欲しいと思います。

# 専門技術研修を経験して
## ～横浜市総合リハビリテーションセンターで学んだこと～

石川県リハビリテーションセンター
作業療法士　戸　井　裕　子

平成19年９月３日より６週間、専門技術研修に参加しました。研修先は横浜市総合リハビリテーションセンター（以下、横浜リハセンター）で、全国的にも地域でのリハビリテーション活動や療育分野のリハビリテーション活動が活発に行われている機関です。特に「在宅リハビリテーション事業」では、横浜市在住の障害児・者および高齢者の方々に対し、障害や加齢によって生じる生活上の問題の改善や軽減などを図ることを目指して、リハビリテーション専門職が訪問のうえ、関係機関と連携しながら支援を行っています。このような目的の事業はリハビリテーションセンターでも実施してはいますが、啓発普及活動不足か、まだまだ知られていないのが現状であり、どのような点が横浜リハセンターと異なるのか、横浜リハセンターはどのようにして市全域に事業を周知徹底し、幅広く活動を行えているのかがとても興味関心を持って、研修を受けてきました。研修中は私の疑問に思っていることや、横浜リハセンターの活動について、職員の方が丁寧に指導してくれました。

実際の活動場面では、住宅改修に関する支援から、生活の幅を広げるための助言・指導や福祉用具の提供、さらに在宅サービス（訪問介護・看護）のスタッフへも助言・指導を行い、本人や家族だけでなく、支援を行っているスタッフの支えにもなっていました。また、横浜リハセンタースタッフが何の目的で、関わっていくのかを初回の時点で、関係機関と意思統一を図り、目的が達成できた時点で支援を終了とし、家族やそのほかの支援者にバトンタッチして、他の在宅サービスとの違いを明確にしていました。また、横浜市のなかで事業の周知が徹底されており、区役所やサービス事業所との連携がスムーズに行われていました。

住宅改修に関する支援では、横浜市と石川県の地域差を感じました。横浜市の場合は、廊下のない家や、２階が生活場所という家が多く見られました。また、道路から玄関までに急で踏みしろの狭い階段が数段あったり、玄関前のスペースがほとんどない家が多かったです。そのなかでどのように外出方法を確保するかが重要なポイントとなり、石川県ではあまりみられない階段昇降機や段差昇降機を利用することが多く、それらを利用するときの制度が整備されているため、外出手段を確保できていました。石川県でも制度を利用した環境調整がより充実できるといいなと感じました。

石川県は十数年前から保健所や市町にリハビリテーション専門職が常勤し、地域における様々なリハビリテーション活動は行われてきたという歴史があります。そのなかで、当センターも横浜リハセンターのようにはいかないですが、これまでの活動をより充実するように、今回の研修で得た知識を生かしていきたいと考えています。そして、皆様が日々の業務で困ったときにすぐに相談にのり、一緒に支援していけるようになることが今後の石川県リハビリテーションセンターの役割のひとつであることを横浜リハセンターにいき、強く感じました。

編集・発行　石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353　金沢市赤土町ニ13－１
TEL（076）266－2860　FAX（076）266－2864
E-mail iprc@pref.ishikawa.jp
http://www.pref.ishikawa.jp/kousei/rihabiri